

## 平成30年度 学生海外研修報告書 (担当教員)

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: グローバルセンター特任准教授

氏 名: 森田 豊子

授業科目名	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)
研修先(国・地域) 滞在地	イスファハン医科大学 他 (イラン・ラシュト、イスファハン、テヘラン)
研修期間	平成31年2月11日～平成31年2月22日
<p>〔研修の成果〕</p> <p>本科目の担当者は鶴戸聡法文学部准教授であるが鶴戸准教授は自己負担で引率に参加し、P-SEG(進取の精神グローバル人材育成プログラム)の一環としてグローバルセンター森田特任准教授が引率として参加した。今回も本学研修先のイスファハン医科大学および、地方都市ザヴァール、児童養護施設訪問に際しては、2年前に非常勤講師として引率をお願いした細谷幸子国際医療福祉大学准教授にたいへんご協力をいただいた。今回の研修では、イラン北部のカスピ海沿岸部のラシュト、中部のイスファハン、首都テヘランの三都市をめぐる。ラシュトでは、鹿児島と同様にお茶の栽培が盛んなラーヒージャー、また、ラームサル条約が締結されたラームサルを訪問した。中部にあるイスファハンでは、本学協定校であるイスファハン大学へ行き、大学を見学した他、学生どうしで英語によるグループディスカッションを行った。鹿児島が離島を抱えているのと同様に、イラン中央に位置するイスファハンも多くの地方の地域を抱えている。イスファハンと鹿児島で共通して存在する課題について、相互の文化の近いについてなどを議論する機会を持つことができた。また、イスファハンでは、保健省のジャマーリー氏の協力のもと、地方都市であるザヴァールを訪問し、イマームザーデなどイランのシーア派ならではの都市の構造やカナートなどの水利灌漑施設のあり方を理解し、郊外にある砂漠を訪れることができた。さらに、イスファハンではキリスト教教会やゾロアスター教の神殿などのイランの宗教的マイノリティの施設を見学したり、イスファハン在住のソルーシュ氏のご協力のもと、イランの児童養護施設の訪問を行った。児童養護施設では、子どもたちとの交流の後、施設長のメフディザーデ氏から子どもたちの現状についての説明を受けた。さらに、テヘランでは、JICAにおいて広報部の水谷氏からお話を伺い、現在、イランで行われている日本による支援活動についての説明を受けた。さらに、テヘラン大学日本語学科の学生たちとのグループディスカッションも行うことができ、現在のイランの学生たちの現状について深く知ることができた。さらに、最終日には、在イラン日本大使館を訪問し、斎藤大使から大使の仕事、イランの現状についてのお話を伺ったり、大使館員の清水氏から大使館での仕事についての説明を伺うことができた。毎年のごとであるが、イランに行くまでは、危険で何が起るかわからないという印象を持っていた学生たちが、イランの学生や研修に協力してくださる方々、一般の人々のホスピタリティに触れて、今後もイランに関わりたい、イランに対して何らかの行動を起こしたいと学生たちは考えている様子がうかがえた。今後も鹿児島地域と中東・イスラーム地域との関わり、自分たちができることを考え続けてほしい。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>今回は、こちらが一方向的にプレゼンテーションを行うのではなく、双方向で行われるグループディスカッションでの交流を目指した。しかし、特にイスファハン医科大学の学生たちとの交流では、英語によるコミュニケーション不足が見られた。今後はより充実した事前学習が必要であると思われる。さらに、今回は特にイスファハンでのプログラムにおいて、イスファハン医科大学だけでなく、仲介の労を取ってくださっている細谷氏、ジャマーリー氏、ソルーシュ氏などへの事前および現地に対する連絡や報告が不足し、たいへんご迷惑、不快な思いをさせてしまい、この点については深く反省したい。</p>	